

令和3年度第1回新潟市立坂井輪図書館協議会 議事概要

I 開催概要

- 1 日時 令和3年7月5日(月) 午前10時～午前11時15分
- 2 会場 坂井輪地区公民館4階 講座室1
- 3 出席者
＜委員＞星野会長、郷副会長、田村委員、藤田委員、松尾委員、安田委員
＜事務局＞真柄館長、川上主任、小林主査、藤田主査
＜傍聴者＞なし

II 次第

- 1 開会
- 2 館長あいさつ
- 3 議事
(1) 令和3年度 事業計画及び予算について
(2) 令和2年度 図書館ビジョン実績評価及び事業報告について
- 4 その他
- 5 閉会

III 配付資料一覧

- 令和3年度 第1回 新潟市立坂井輪図書館協議会次第
- 資料1 西区ビジョン第4次実施計画(令和3～4年度)[抜粋]
- 資料2 令和3年度 事業計画(西区の図書館)
- 資料3 令和3年度 西区図書館予算
- 資料4 令和2年度 図書館・地区図書室・予約本受取サービスの蔵書・利用状況
(速報版)
- 資料5 令和2年度 事業報告(西区の図書館)
- 資料6 第二次新潟市立図書館ビジョン 令和2年度実績評価シート(西区)
- 参考資料 令和元年度 新潟市立図書館施策・事業評価シート
- 参考資料 令和元年度 新潟市立図書館指標別評価シート

IV 主な意見・質問等

- 3 議事
(2) 令和2年度 図書館ビジョン実績評価及び事業報告について
(藤田委員) 具体的にどのようなコロナウイルス感染対策を行い、どのような事業を計画していくのか。

- (事務局) 長時間滞在を避け、不特定多数が接触しない事業の計画を立てている。
例えば、夏休みの子ども向け事業も、図書館内に長時間滞在しなくても参加できるスタンプラリーで図書館利用を促すなど、他の事業についても同様の工夫を行っている。
- (藤田委員) COVID-19 の影響を見越しての事業を計画する必要があるのではないか。
「第二次新潟市立図書館ビジョン」は COVID-19 の前に作成されている。
COVID-19 の影響が今後どの程度続くのか、だれにも見通せない状況だが、1~2年後には、「コロナの影響により、目標を達成できなかった」というのは言い訳になってしまう。
そこで設定された数値目標に合わせていく必要はないのではないか。ここでビジョンを軌道修正する必要があるのではないか。
燕市の図書館では、電子書籍サービスを開始した。そういったことを検討する時期なのではないか。
- (事務局) 電子書籍については、新潟市でも検討に入っている。なかなか来館できない方にも図書館を利用いただけるように動いている。
- (会長) 坂井輪図書館だけでなく、市立図書館全体の問題なので、連携してビジョンの見直しや数値の再設定が必要になってくるのではないかと。
- (安田委員) レファレンスサービスとは具体的にどんなものなのか。
- (事務局) 調査相談サービスと言い、利用者の要望に応じて、簡単なものでは本の検索、そのほか昔の新潟市の様子を調べるなどの調査に対してお答えしている。
- (安田委員) 「第二次新潟市立図書館ビジョン」にある、地域の課題に解決に役立つ資料の収集とあるが、どのような点を地域の課題として捉え、資料を選定、収集しているか。
- (事務局) 西区では、区としても高齢者が多く、図書館利用者も高齢者が多いため、坂井輪図書館では「セカンドライフコーナー」を設け、高齢者向けの資料を1か所に集めて利用いただいている。
郷土資料は、他の中心館に比べ資料が少ないが、地域にかかわる資料や出版されている資料、郷土行政資料を重点的に収集している。
- (安田委員) かなり専門的な知識をお持ちの方もいるので、埋もれてしまわないように、発表の場があったらよいと思う。
- (田村委員) 昨年度スタートした3週間貸出・15冊貸出は良かった。周囲でも同様の声を聞いた。「出かけるのはこわいが、本は借りたい」という気持ちに沿った対応だと思う。
コロナ禍の状況が日常になる中、図書館は役に立つという情報発信をしてほしい。
配架・書架整理ボランティアは、対策を行って再開してほしい。

子どもの読書だけでなく、大人も読書するとか、子どもと一緒に高学年向けの本を読む読書会とか、良いアイデアがあればぜひ進めてほしい。本を読む土壌ができたところで育った子どもは、大人になっても本を読む社会を作っていくと思う。

レファレンスについて、知らない人にとっては、どういうものなのか、どう依頼するのかなど分からず、まだ敷居が高いかもしれないが、何かを調べる際に、ネットで調べてわかる内容と、図書館で調べて示される情報とではやはり違いがある。ぜひ、レファレンスサービスについて広報してほしい。

(事務局) 7月からは **Twitter** での図書館広報がスタートする。**Twitter** で働きかける層は若い層かもしれないが、そこでもレファレンスの広報をしていきたい。また、図書館内でも、レファレンスの広報を行ってきたい。

(藤田委員) 大学生たちも図書館で本を探せない、図書館のレファレンスを活用できないという状況がある。1年生のゼミでは、あるテーマについて、学生たちに図書館で本を探させた後、大学図書館のレファレンスで本を提供してもらい、という利用教育を行っている。学生が集めてくるものは限られているが、大学図書館職員が提供してくれた本を見せると、その多さに学生たちが驚く。こうした体感があると、「次、使ってみよう」と思えるが、体感するまでのハードルが高い。大学生に図書館の使い方を知ってもらうためにやっていることをお話しした。

(副会長) 「コロナ禍だから、できなかった」ではなく、学校での読み聞かせボランティアは「こんな時代だからこそ、本の温かみを伝えたい」と活動してきた。遠目がきく本、離れていても伝わる本など、選び方が変わってきた。コロナ禍で活用できる選書を発信してほしい。また、読み聞かせに映像を使う、放送を使うなど、いろいろな方法も考えられる。東京子ども図書館でも、ホームページでのおはなしの動画配信など方法を工夫している。親子で自宅で過ごす時間が増えたと思うので、絵本の読み聞かせを良い形で発信していく材料にすることができるのではないか。

また、地域の課題解決のテーマはどのように決めているのか。地域の良さ、西区の特産品なども、住民にはあえて目につかないので、あわせて発信してほしい。

そして、学校では、探求型学習を進めているが、中学校・高校では学校図書室が利用されていない現実がある。学校の図書室を探求学習の拠点として活用できるように学校司書の皆さんと連携して市立図書館からも働きかけができればよいと思う。

(事務局) 例えば、西区の特産物をテーマにした場合、図書は少ないが、西区や関連機関で作成しているパンフレットなどもあわせて展示すると、図書館利用に

もなるし西区の特産物の PR にもなる。そういう形での展示を考えていきたい。

(副会長) 西区にたくさんの機関や団体があるので連携を進めてほしい。団体貸出も西区の商工会を通じて働きかけて、もっと利用してもらえるとよい。お店に行っても、図書館の本が並べられているといい空間になる。

(田村委員) 例えば、黒埼茶豆をテーマにしたとき、黒埼茶豆の本は少なくとも、関連機関のパンフレットがあるかもしれない、豆についての本はもっとあるかもしれない、そこから広がり、他のレファレンスにもつながるかもしれない。それが地域の課題解決になっていくのではないか。

(藤田委員) 一つのことから広げて、探求していく資料のそろえ方、選書をしてもらうと、それを見た市民にとって、他人事でない、私事と覚えてもらえる地域課題の発見になるかもしれない。

(事務局) 人と資料を結ぶのは難しい。ひとつのテーマから広げてのテーマ展示に引き続き力を入れていきたい。

(会長) GIGA スクール構想によって、児童それぞれにタブレット端末が配付されたが、ツールだけでは学びが深まらないことがある。小中学校では特に、地域に根差した教育活動を行っているので、学びを深めていくにつれて出てこない情報が多くなる。その時に図書館というツールの活用の仕方を学ばせることも学校教育の重要な部分である。私たちも図書館を上手に活用しないと地域の課題が浮き彫りになってこないのではないかと感じた。